



抗がん剤の選択

～ 「効く」と「治る」とは違う ～

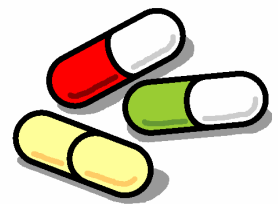
今や日本人の3人に1人はガンにかかると言われていています。大変身近な病気になってしまったガンですが、ガンに罹った方の大半は病院で化学療法(抗がん剤や放射線など)の処置を選択されています。

ツルガ薬局
田邊 宗久

「抗がん剤」と聞くと、さもガン細胞だけを集中的に攻撃するようにイメージされるかもしれませんが、副作用が多いことも周知されているように、やはり自分の体にかかる負担は大なり小なり避けられない部分があります。

ここで、中村仁一さんというお医者さんの本の一部をご紹介させていただきます。

抗がん剤が「効く」として採用・承認される基準は、レントゲン写真など画像の上で、がんの大きさ(面積)が半分以下になっている期間が4週間以上続くこと、そして抗がん剤を使った患者の2割以上がそういう状態を呈することというのが条件なのです。



8割もの患者が反応しないようなものが、薬として認可されるなど他では考えられません。そのうえ、抗がん剤は当然強い副作用もあると覚悟しなければならない、ガンだけを攻撃するのではなく、まともな細胞や組織もやられるわけですから。

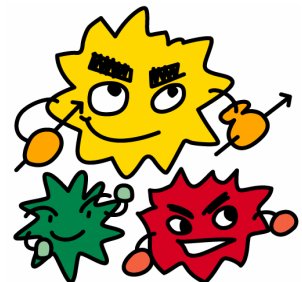
また、病院のガン治療についてこのようにも書いています。

手術や放射線、抗がん剤などのガン治療は、完全に根絶やしに出来るものでなければ意味が無い、残党が存在すれば、それが増殖してしまう、「ガン」で死ぬのではなく、「ガンの治療」で死んでしまう。
《大往生したけりゃ医療とかかわるな 中村仁一より》

2011年4月5日の京都新聞朝刊に載っていた記事も紹介致します。
「健康人の身体の中でも、毎日約5000個の細胞がガン化している。自分の免疫細胞がこれを退治してくれているからガンにならずに助かっていることについて、インターネットで男女1000人に調査したところ、知らなかった人が7割もいた。自分の免疫細胞がガン退治をしてくれることへの認知度が大変低いことが分かった。」

皆さんは、どう感じますか？

本来ガンの細胞は、自分自身の細胞が異常に変化したものです。正常じゃないにしろ自分自身の細胞に他なりません。当然、自分の細胞は、自分の細胞で修復・再生していくべきではないでしょうか。逆を言えば、自分でしか治すことができないとも言えるのではないのでしょうか。



もっと自分の身体・細胞を大切にしてほしい・・・、なぜ病気になったのか、なぜガンになったのか、どんな病気にも原因があり、全ての病気に共通することは自分自身で治すということです。ぜひ自分自身で治す意識をもって、治せる状態まで自分を高めること、このことが何よりも大切なことではないでしょうか。